

事業実施の目的
 令和2年度に本市独自の接続カリキュラムを改訂し、検証を行う予定がコロナ禍により難しい状況であった。本事業により、幼児期における遊びや学習活動における主体的に学ぶ姿について中学校への接続まで関連させ、発達の段階ごとの学びの連続性を整理した架け橋期カリキュラムを開発し、充実・拡張を図る。共通の視点をもち実践・評価し合うことにより、相互理解と連携を一層深め、保育士・教員の資質・能力の向上につなげたい。

事業内容・成果 (R4年度)

1. 主な取組内容について

【架け橋期のカリキュラム開発会議】

- ・教員養成大学教授、大学研究所応用脳科学専門家、校長会代表、公立保育園長代表、公立幼稚園長、福祉部子ども家庭課長、教育委員会学校管理課長・担当指導主事からなる13名で4年度は1回の開催。目指す子ども像、共通の視点、方向性について協議した。

【実務的取組を協議・推進するために運営会議の設置】

- ・開発会議メンバーを含む小学校長5名と公立幼稚園・保育園長6名、小学校各校教諭9名、幼稚園代表教諭・保育園代表保育士2名、連携担当課の職員4名で構成し、5回開催。「研修」「広報」「カリキュラム」「総務・渉外」に分かれて取組の共有・検討・開発を行う。このメンバーにより架け橋期のカリキュラム暫定版を作成した。作成にはアドバイザーとして開発会議メンバーの大学教授に参加してもらった。

【架け橋期のカリキュラム】

- ・架け橋期カリキュラム暫定版を作成。市内3ブロックで目指す子ども像を10の姿も参考にして話し合い、特に、「自立心」「協同性」「豊かな感性と表現」を重視していくこととした。アプローチカリキュラムは、環境構成を具体的に示し、育てたい10の姿を入れて作成。スタートカリキュラムは、週案タイプには幼保からのつながりを意識した授業のポイントを示した。また、生活科中心の単元デザインも作成した。

【園・小学校における体制】

- ・各園長、各小学校教諭が運営会議のメンバーとして合同会議に参加。3ブロックに分かれ、小学校教諭が各園で一日保育体験研修を行い5歳児の様子から新たな気づきを得る。モデル校・園の交流活動を機に、各小学校で5歳児との交流活動を再開。（オンラインも含む）

【自治体における体制】

- ・子ども家庭課（保育園担当）課長、保育担当者が会議に参加。母子通園施設長も内容に応じて会議に参加し連携を図っている。3月には私立を含む市内全園・小学校・中学校の管理職及び管理職から推薦のあった職員を対象に開発会議メンバーの大学教授による理解研修を行った。

2. 主な成果について

- ・運営会議、カリキュラム案の作成、一日保育体験・情報交換を行うことで、各園・小学校の担当者を中心として顔の見える関係を構築することができたことが大きな成果である。また、作成した架け橋期カリキュラム暫定版について、スタートカリキュラム研修会を小学校1年生担任、アプローチカリキュラム研修会を5歳児担当者等を対象に実施し、接続への園の思い、接続に向けた意識の変化の声が担当者から得られた。

事業実施地域・協力園校 (R4年度)

【実施地域】
 ○ 白石市

【協力園校】
 幼・保：公立幼稚園1園、公立保育園5園（全園）
 小：公立小学校9校（全小学校）

今後の目標 (R5年度)

- ・市内全ての園・小学校による架け橋期カリキュラム実践・検証
- ・カリキュラム検証につながる合同研修・情報交換の場の設定（園・小学校相互での一日体験研修の内容、時期、回数）
- ・架け橋プログラム理解研修会（市内全園・小中学校対象）
- ・保護者への取組内容の周知

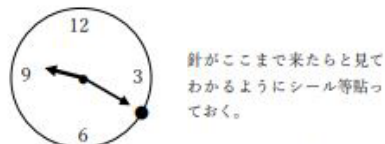

○【全体計画 (案)】

①目指す子ども像として、特に重視したい「自立」「協同」「豊かな感性と表現」の具体像を表記、②ねらい、③保育内容、④保と幼共通の遊び、⑤小学校生活科単元デザイン、⑥保と幼との交流活動を4月から3月までの一覧に整理。

○【アプローチカリキュラム (保育内容)】

3つの視点「生活をつなぐ」「人をつなぐ」「学びをつなぐ」に分けて活動名ごとに作成。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示し、環境構成は実践内容をイメージしやすいように作成。

生活をつなぐ
 自立心 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

活動名	時計をみて生活をしよう
ねらい	◎生活の中で、めやすとなる時間に気づく。 ◎時計を見て、行動しようとする。
環境構成	<p>◆時の記念日等をきっかけにしたり、時計にまつわる絵本を用意したりし、時計や時間に興味をもてるようにする。 ◆針、秒針の動きなどで時間の流れが感じられるように、アナログ時計を準備する。</p>  <p>◆園の生活の流れに沿った掲示物を用意し工夫して知らせ時間を意識して行動できるようにしていく。</p> <p>きょうのよとい (スケジュール)</p> <p>①たいそう ②うたをうたう ③そとであそぶ ④きゅうしょく</p> 
幼児の活動	保育者の配慮・援助
○時間、時計に関心をもつ。 ・時間、時計にまつわる話を聞く。	◇時計にまつわる話を通して、時計に興味をもてるよう工夫する。

○【スタートカリキュラム】

①週案タイプモデルプラン、②生活科単元デザイン、③「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりを作成。
 週案タイプ (4月から5月1週まで) には、幼保でやってきた手遊びや歌からスタートする提案や【幼保からのつながりを意識した授業のポイント】を示し、ゼロからのスタートではなく、円滑なスタートに向け1年生担任が意識を共有できることを目指している。

週案タイプ モデルプラン

第1週 令和5年4月10日 (月) ~ 4月14日 (金)

【今週のねらい】	『はじめまして 学校』 1年生になったことを喜び、楽しく過ごすことができるようにする。				
	10日 (月)	11日 (火)	12日 (水)	13日 (木)	14日 (金)
行事等		入学式	幼保で歌った歌や手遊びで一日をスタート		
1			音楽 手遊びをしよう うたっておどってなかよくなろう	音楽 手遊びをしよう うたっておどってなかよくなろう	音楽 手遊びをしよう うたっておどってなかよくなろう
			学活 元気な返事やあいさつ 学習道具の出し入れ プリントのまらみか	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう
			図工U、5	道徳1	体育1
【幼保からのつながりを意識した授業のポイント】					
○生活科を中心に総合的・関連的な指導を行う。					
○時間の枠で区切っているが、実際の活動では子供たちの思いを拾い上げながらゆめらかに活動をつないでいくようにする。					
○子供たちが園で経験したことを話し、伝え合いながら活動を広げていくようにする。					
○1時間目の音楽では幼稚園や保育園で歌った歌や手遊びを取り入れ、安心して学校生活の一日のスタートが切れるようにする。					
○複数学級がある学校では、1時間目の音楽を学年全体での活動として設定することで、友達づくりに対する不安を解消するとともに、担任だけでなくたくさんの先生が見守っていくことを伝え安心させる。(特別支援担当、7学年、支援員も1時間目の活動に加わるようにする)					
○入学式の翌日は、子供たちは不安でいっぱいである。「学校は楽しい」「学校は安全」と思えるような活動を工夫する。					
○1年生はゼロからのスタートではない。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえた指導を工夫する。					
○教室に絵本のコーナーや自由遊びのスペースを作り、新しい環境の中でも落ち着いて過ごすことができるようにする。					

